

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101119		
法人名	有限会社 浅善		
事業所名	グループホーム愛荘		
所在地	滋賀県大津市際川4-13-6		
自己評価作成日	平成23年12月30日	評価結果市町村受理日	平成24年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、ご家族のご意見を尊重しケアに取り組んでおります ・笑いの多い楽しい雰囲気作りを目指しケアに取り組んでいます ・行事もほぼ月1回行ない、ボランティアによる催し物もあります ・できないことより、できることに目を向けた支援を目指しています ・事業開設以前より事業者代表が自治会役員で地域社会と関わり、また15年間にわたって母親の介護にもあつた経験を通じ、「施設」ではなく高齢者が最期まで自然体で暮らせるような「住まい」を目指しております。また職員一人ひとりの個性を尊重し「自然体」のケアで利用者、ご家族、地域の方と人間関係を築いていきたいです ・常に利用者のQOLが向上するための工夫や方法、手段を考え取り組んでいるところ ・できることをしてもらえよう、またそれによってその人なりの生活が充実するように支援しようとしているところ
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570101119&SCD=320&PCD=25
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇点2階		
訪問調査日	平成24年2月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>湖西線唐崎駅と国道161号線との間の住宅街の中に位置し、法人の代表者が介護に対する強い思いの下、自宅の隣接地に設立した事業所である。代表者の指導により管理者を初め全職員が気負う事なく自然体で利用者の介護に努め、日々のケアに取り組んでいる。利用者は終の棲家として穏やかに楽しく満足感を持って日々の生活を送っている。終末期に対する意思確認、状況変化が生じた場合は家族と再確認、内容更新している。入浴では、本人の希望を受け止め一日中対応に努めている。訪問当日にも昼食時に入りたいとの希望が出て、対応している等、利用者本位に立った支援に努めているのでサービスの質の改善につながっている。利用者には挨拶すると笑顔で話してこられるなど明るい雰囲気が漂っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」をスローガンとして毎朝礼時に読み上げ意識付けをしている	「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」の理念の下に、細部実施指針を作成し、玄関に掲示している。毎朝唱和して理念の共有と実践、ケアについて意思統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所立ち上げ以前より、事業主は自治会、自治連などの役員をさせていただいており、地域とも繋がりが出来ている	自治会に加入し老人会にも参加している。自治会の祭り行事も協力している。地域の「ふれあいサロン」への参加、近所の住民の来訪、ボランティアによるレク活動と近隣との交流は活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の自治会の人権推進委員会よりH23年2月に認知症のテーマとした勉強会の依頼を受けて行なった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容を職員会議で報告し、その中で今現状で行なえるであろう意見を取り入れていくようにしている。時々、運営推進会議にケアスタッフも同席させることでさらに活かせるものと考えている	隔月に年6回開催している。包括支援センター、民生委員、福祉委員、家族代表等で構成し、出席者は活発に意見交換し、議事録を完備し、職員会議等で職員に周知している。	外部評価結果を報告し、懸案事項や目標達成計画の取り組みについてモニター役を担ってもらう事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者本人のケアなどの困難ケースと考えられることは事業所だけで解決せずその都度相談させていただくようにしている。	大津市介護保険課とは困った時、資料提出等折にふれ連携に努めている。包括支援センターの職員とは運営推進会議以外に日常的に相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けた研修などには積極的に参加し、それを基に取り組んでいる。	身体拘束に関する研修会に参加すると共に、身体拘束になる禁止行為11項目は職員に配布すると共に徹底を図っている。施錠は夜間のみで、日中は見守りに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年同様、高齢者虐待関連法について学ぶ機会はないが、利用者に何かしらの原因不明のアザ、ケガを見つけたときは報告書を作成し、各職員にフィードバックしてその注意、防止の意識付けに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度も成年後見制度において出愛荘利用者3割の方が制度利用しているため、関係者の方と関わる機会は多々ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の場合必ずご家族に来ていただき、ご理解を得た上で話をすすめるようにしている。改定の場合は文書、電話両方にて確認、説明をさせていただきようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は主に運営推進会議にて抽出して、職員会議にて報告して反映に努めている。時には面会時にご意見を伺うこともある	運営推進会議の家族代表2名は毎年持ち回りで、家族の意見が活発に出ている。家族来訪時に、何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。意見・苦情もファイルし、職員会議で協議しケアの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケア会議、その他の会議に代表者に意見や考えを聞いてもらう場を設けていただき反映するように努めている。会議まで待てないものなどは即日、管理者に確認を行ない実行、再検討に取り組んでいる	運営に関する職員会議を月1度全員出席の下開催し、2時間程かけて相談しサービス向上に反映している。また定期的に個人面談で意見聴取している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度経営会議を開き、現場の状況を各リーダーより報告しその問題について検討しているが、介護保険制度上が含む問題でもあるため個事業所単体で検討するのにも限界な項目もある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修を行ない伝達報告もしており、今年度も内部研修に、看護師職員や、研修終了後職員より伝達講習会も催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃つながりのある事業所の代表者が主催する研修、講演会には参加し勉強させていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前は本人や日頃つながりのある方々（家族、介護サービス関係者など）直接お会いしてお話を伺い、利用開始後はそれを基に本人の何気ない会話より具体的に導き出して関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成で家族の不安、心配な事を聞きそれをプランの中に入れて家族と一緒にケアしていくように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者中心にアセスメントを行ないユニット会議で話し合い、家族の方とも相談をしてケアプランを作成して支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	数々の経験のお持ちの方々なので「親」、「家族」、「人生の先輩」、「必要としている存在」、「持ちつ持たれつの関係」と各職員それぞれの気持ちで利用者との関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年全ての行事には家族の方をお招きをきっかけに日頃から家族の方と接する機会をさらに多く増やし、家族と職員が気軽に話し合えるような場面多くしてさらなる関係構築をしていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年同様、個別ケアで故郷、生家への帰郷や地域の皆様の協力の下、馴染みの人と老人会、食事会に出かけたりと行なっているも利用者の体力低下によりそれぞれの支援は弱くなっていることが課題である	馴染みの人や場等は入居者の基本情報で細かく把握し、関係継続を支援している。近隣住民の協力の下、友人や知人、なかには昔の教え子の来訪もある。今年の年賀状も作成支援した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士頼りあっていることもあり職員見守り程度でよい場面もあれば、ケンカも起きることもあり様々な場面で関わり、支え合いの間に入っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去になった方にはお見舞いに行ったり、転居となった方へも様子を伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人より日々の関わりの中での会話で希望、意向を導きユニット会議等で整理している。利用者自ら表現困難な方が多くなった1Fユニットにおいてはしぐさ、態度、家族からの意見も参考にして関わっている	フェイスシートや生活歴から思いを理解し、可能な限り本人の希望に沿うよう努めている。新しい情報、気づきがあれば都度追加し、ケア会議、ユニット会議で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、ご家族もあれば、面会に来られたお知り合いの方や、馴染みのあったご近所さんより伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の表情、しぐさ、会話にも注意を払い具体的に記録に記載し、引継ぎ等の記録を確認することにより現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にてケアプラン以外の項目についても話し合いその実施、検討内容がプラン化することもある	アセスメントシート、モニタリング記録よりケア会議で検討し介護計画の見直しを3ヶ月毎に行い家族の承認を得ている。PDCAの管理サイクルが良く回っている。身寄りのない5人には成年後見人にコピー送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の細かな変化も記録して各職員それぞれの意見も参考にして会議等でまとめてその都度対応を変化させ介護計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や家族の要望をもとに医療関係者、訪問マッサージ、福祉用具、地域文化交流サービスと連携して利用者支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	代表者の尽力であらゆる面で地域資源には恵まれている事業所なので、利用者と地域の方々と関わるよう支援を行っている。今年残念なことは近所のスーパーが閉店してしまったことである		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が出愛荘の協力医であるがご家族の協力、希望があれば長年通いなれた病院の受診、往診を継続している	本人や家族の同意のもと協力医にしている。事業所での協力医往診は15名、協力医へ出向いての受診は3人で職員が送迎、支援している。定期的なかかりつけ医の受診は家族に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回現場に入ってもらい、出勤しない時でも電話相談や、利用者の状況によっては出勤時間を変更を申し出てくれる。職員向けに内部研修の講師にも買って出してくれる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人的に見舞いに行く職員も多々あり情報交換を迅速に行なうようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より意思確認を伺う書類を用意して把握している。命に関わる事項のため容態変化時に再確認、意思変更もある時はその都度変更している。身寄りのいない利用者もいるが、その方には権利擁護事業所の協力のもと支援にも努めている	入居時に重度化、終末期に対する意向確認書(重度化時事前指定書はきめ細かく、選択肢の多いアンケート様の文書)で共有している。状況変化が生じた場合は家族と再確認し内容更新している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	知識勉強においては看護師の協力のもと勉強会を催しているも、いざ実際の場面に遭遇した事例が少ないので一部の職員の対応力に経験不足の感もある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	34項目同様、頭の中ではわかっているが、いざ実際の場面を想定した訓練を行なうと慌てる箇所が多々見られる。そしてまだ地域の方の協力体制は築いていても合同訓練までは至っていない	災害対策マニュアルを整備し、年2回消防署に届出、実施日には消防署の立会がある。消火、通報、避難更に夜間を想定した訓練を実施している。オール電化で、設備点検も年1度実施し、食糧等の備蓄も更新中である。	地域との合同訓練を実現させてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の程度、性格、病状を考えその人に合うであろう言葉使いや対応に心掛けている。またこちらの表情、態度でも人それぞれ感じ方が異なるので配慮も必要と感じる	誇りやプライバシーを損なわないよう言葉かけは小声で丁寧にし、尊厳に対する配慮は行き届いている。個人情報に関する書類は事務所の書庫や日々の記録類は目につかない所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話で見つけたり、自分の言葉で表すのが難しい方には過去の趣向からこちらで推測して普段使っている言葉遣いで伝えて働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者に全てのことができるわけではないので歯がゆい思いを職員は持ちつつも、「出来る限りのことは…」と日々努めている中、重度の方が多くなっている現状なので難しくなっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好んで服を選ぶ方が少なくなってきた中で職員より身だしなみは気をつけている。理美容は近所の美容院に行くこともあれば、訪問してもらうこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理作れなくても味見をしてもらうなど参加してもらったり、何を今作っているかを利用者に話しながら食事への関心を持ってもらうようにも心掛けているが関われる利用者が少なくなってきた	食事の半分強給食業者より仕入れている。利用者は盛り付け、食器拭き等に参加している。雑祭り、誕生会や折々の外食など楽しんでいる。評価当日も会話をしみじみ美味しくと言って利用者はほぼ完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大半の方はしっかりと食事、水分摂れているが、食事のリズムが固有のものを持たれている方にはそのリズム、食事形態、量を把握して支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後される方、1日2回の方とさまざまである。希望者対象に訪問歯科による対応も行ない、職員の口腔ケアの意識付けを強化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態、時間を記録にしてパターンを確認して時間を見計らってトイレ誘導を行っている。今年はオムツ講習会を行ったことをもとにしてよりよい関わり方を目指している	食事や水分摂取量、排泄パターンを把握し、利用者のサインを注意して見守っている。オムツ講習会も実施し、自立支援の結果、介護度が高い人が多いが、失禁が減りトイレで出来るようになった人が半数以上になった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回は飲み物としてヨーグルトを飲んでもらい、主に水分をしっかり摂ってもらうことで予防対応に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回は入浴してもらうようしている。まれにタイミング合えば申し出直後の入浴にも取り組んでいる。男性利用者で夜間入浴希望している方がいて、入浴後には缶ビールを差し出して喜んでもらっている	平均週2～3回入浴を楽しんでいる。入浴時間も午前、午後、夜と希望に沿っている。1階のリフト浴利用者は18名中5名いる。ゆず湯などの季節毎の記念浴や入浴剤で変化を持たせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に利用者まかせの自由なところもあるが、重度の方には時間おきに一旦睡眠させる方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人がどのような薬を飲んでいるかファイルがあり、いつ服薬したかの時間も記録にする方もいて慎重に対応を心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で利用者ができることをおこなってもらい、作業なら感謝の気持ち、楽しみごとには一緒に楽しんだ気持ちを言葉できちんと伝え取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域資源の基盤もしっかりしているので、全職員この項目に関しては一番力を入れて取り組んでおり、利用者の反応も最も好評的であるが、限られた方に限定化されている。	天気が良ければ玄関外のベンチで外気に触れるよう努めている。近くの喫茶店や週1回開かれる「ふれあいサロン」に行ったり、ドライブや季節毎の観光等外出支援に努めている。家族の協力による外出も多く見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者出愛荘による完全管理で行っている。中には自身の財布、小銭程度はあるが使用はしておらず、手元にあるだけで安心するという感じである		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を介した関わりはないものの、お便りを通じて様子を伝えたり、ご家族からの手紙が来た場合利用者に手渡すこともある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、屋内廊下、リビング、庭などに職員、ボランティア、利用者による生け花、墨絵・書道を飾ったり、畑の農作物、花壇であったり、歌謡ショーのビデオ映像・音楽と様々である	吹き抜けの中庭があり、採光も良く明るい。リビングの壁にはタペストリーの他利用者の作品が展示されており、掘りごたつを備えた和室や出入り出来る木製のベランダ横には畑や花壇があり、癒される環境になっている。トイレ、浴室共清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置、ソファ位置、喫煙所を決めているだけであとは自ずと利用者まかせの雰囲気です。しかし、入居者の半数が重度になっているため課題も見え始めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使い慣れた生活用具(タンス、イス、中には仏壇もある)の持ち込みをご家族にお願いして出来るだけ自宅に近い雰囲気です。生活していただけるよう努めている	6畳の居室には使い慣れた馴染みの家具等があり、写真等が飾られ、明るさ、空調とも良く管理してあり自宅にいる様な雰囲気となっている。仏壇を持ち込んでいる人も2名いる。カバー、シーツ共2週間毎に交換している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方にも職員がつき手すりを持ってもらい歩行したり、文字を読み取る利用者の方には案内板を用意して対応している		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	震災時において避難・搬送方法をどのように行なうか	利用者にケガなく安全な搬送方法を見出す	地域の方との合同練習 2階から1階へおりる時の利用者にケガなく安全な搬送方法を検討する	12ヶ月
2	10	一部の面会訪問の極端に少ない家族との関わりをどうするか	左記の家族との関わりを増やしていきたい	定期的なお便りのほかにも不定期に匿名でアンケートなどでご質問、ご意見を頂くようなものを送付して連絡等のやり取りを増やしていくところから始めたい	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。